

出洋日記

高田善治郎

021956-000-0

特47-540

出洋日記

高田 善治郎/著

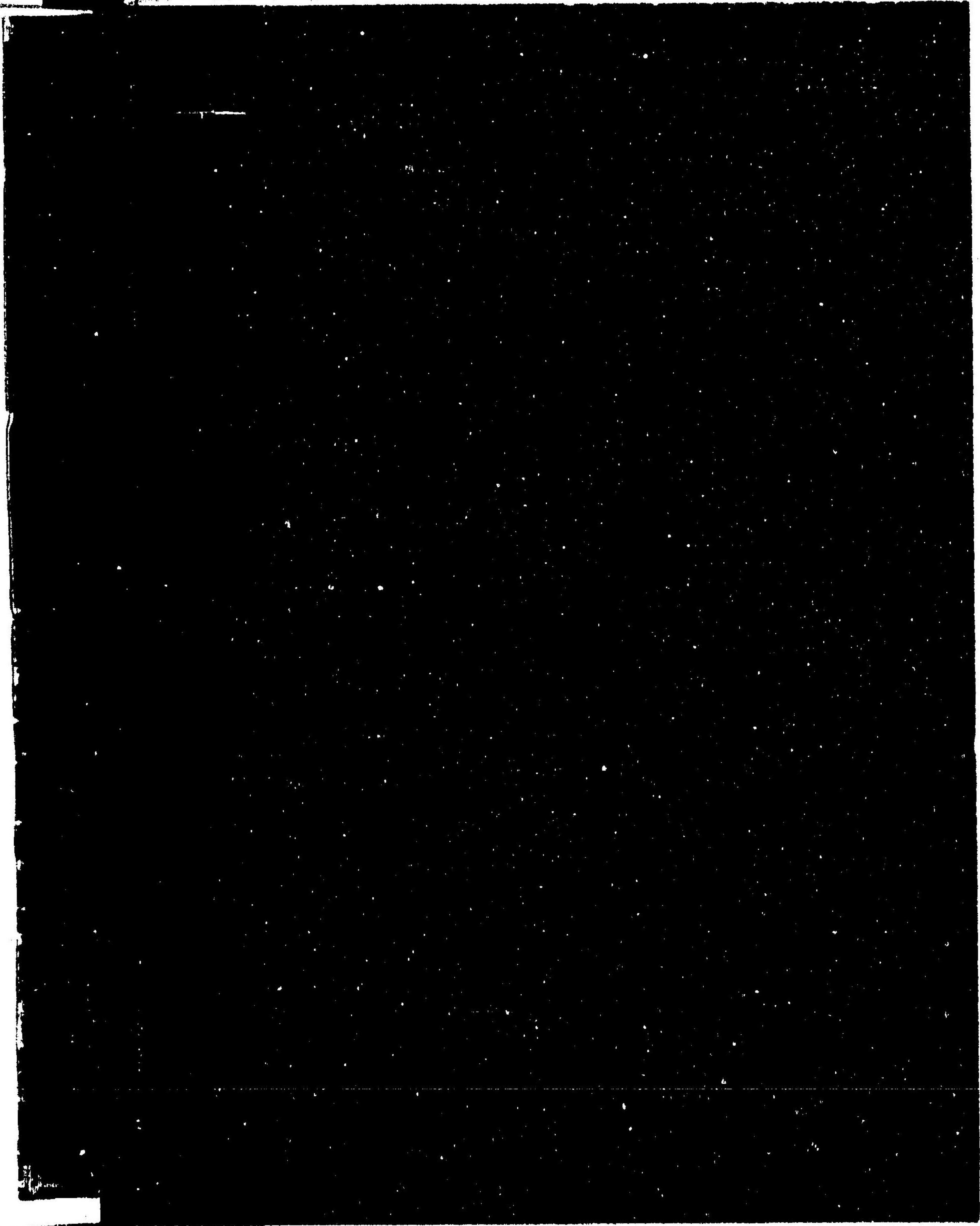
M24

ADA-0206



特

5



7x661

# 出洋日記

高田善治郎著

緒言

一予曩ニ英國ニ遊ビ後又單身米國ニ赴キ親シク彼地諸  
 ナ視察シ明治二十二年四月歸國セリ爾來北海道各地  
 奔走シ多忙之中ニ消光セシガ頃日寒ヲ避ケテ郷里ニ在



予ニ告ケテ曰ク近來洋行者多クシテ其  
 紀行日記ノ類亦抄ナカラズト雖ル未ダ  
 供スベキモノナシ故ニ君宜ク洋行日記ヲ  
 撰ニ頒ツベシト予之ヲ辞スルニ由ナク直  
 リ當時ノ懷中日記中ヨリ先ツ印度洋紀行  
 部ヲ採録シ微リニ題シテ出洋日記ト云フ

一此書題シテ出洋日記ト稱スレハ發刊ノ主意暗ニ著者ガ  
 世ノ實業家ニ支那及ヒ印度貿易ノ擴張ヲ勸告スルノ微  
 志ニ出タリ

一此書素ヨリ勿々ノ編成ニ係ルヲ以テ逐一校正ニ暇アラ  
ズ故ニ書中遺漏猶ホ多シ加之予ノ不學或ハ讀書ヲシテ  
文意ヲ解スルニ困難ナルヤモ計ラズ乞フ幸ヒニ之ヲ諒  
セヨ

明治二十四年二月

著者誌

目次

- 漫遊ノ主意及ヒ印度洋紀行之部
- 第一 偶然機會ヲ得テ積年ノ宿志ヲ達ス
  - 第二 神戸港解纜ノ景况
  - 第三 船賃及ヒ航海里程
  - 第四 神戸香港間ノ航海記事
  - 第五 船客中ニ奇人アリ
  - 第六 香港市街ノ概況
  - 第七 香港ノ人口
  - 第八 香港在留ノ日本人
  - 第九 香港商業上ノ景况
  - 第十 支那商人ノ信用ヲ重シズルヲ
  - 第十一 香港滞在中ノ記事

- 第十二 香港出立并ニ上船ノ景況
- 第十三 佛船「イラワ」ノ事
- 第十四 支那人ノ破産
- 第十五 香港出帆并ニ進航ノ景況
- 第十六 香港西貢間ノ航海記事
- 第十七 「カンボヤ」河進行并ニ西貢着船
- 第十八 「カンボヤ」河ノ記
- 第十九 西貢上陸ノ景況并ニ佛語ノ必要
- 第二十 西貢府雜記
- 第二十一 本邦銀貨ノ通用
- 第二十二 航程
- 第二十三 西貢解纜ヨリ新嘉坡迄ノ記事
- 第二十四 新嘉坡着船

- 第二十五 旅行中ノ一奇觀
- 第二十六 航程
- 第二十七 新嘉坡上陸并ニ市街散步
- 第二十八 新嘉坡雜記
- 第二十九 新嘉坡ノ人口
- 第三十 新嘉坡貿易上ノ記
- 第三十一 「キニフル」民ニ再會
- 第三十二 新嘉坡出帆ヨリ「コロ」ンボ迄ノ航海記事
- 第三十三 「コロ」ンボ港着船ノ景況
- 第三十四 「コロ」ンボ上陸并ニ全市街ノ巡覽
- 第三十五 「コロ」ンボ港雜記
- 第三十六 「コロ」ンボノ氣候
- 第三十七 土人ノ技藝品

- 第三十八 「コロンボ」ノ輸出入品
- 第三十九 錫蘭内地ノ見物并ニ土人ノ懸念
- 第四十 土人雜貨ヲ船客ニ贈ク
- 第四十一 「コロンボ」港出帆
- 第四十二 「コロンボ」亞丁間ノ航海并ニ亞丁奇港
- 第四十三 亞丁蘇士間ノ航海記事
- 第四十四 蘇士奇港并ニ運河通行ノ景況
- 第四十五 蘇士運河ノ記
- 第四十六 「ポートセイド」奇港
- 第四十七 「ポートセイド」山帆并ニ地中海ノ航行
- 第四十八 佛國「マールセル」着船并ニ上陸ノ景況
- 第四十九 佛國鐵道旅行并ニ英吉利海峽渡航
- 第五十 倫敦府着ノ景況

第五十一 神戶倫敦間ノ海陸里程

出洋日記

高田善治郎著

漫遊ノ主意及ビ印度洋紀行之部

第一

予曾テ大阪府立商業學校ニ在學中タルヤ常ニ我

國商業社會ノ前途ヲ憂ヒ一タビ海外諸國ニ遊ビ視シク彼

地商業ノ有様ヲ視察シ大ニ得ルトコロアラント欲スルノ

志シ切ナリシニ偶タマ明治二十年四月我郷國近江ニ於テ屈

指ノ實業家數千名相計リ一大製絨會社ノ創立ヲ企テラル

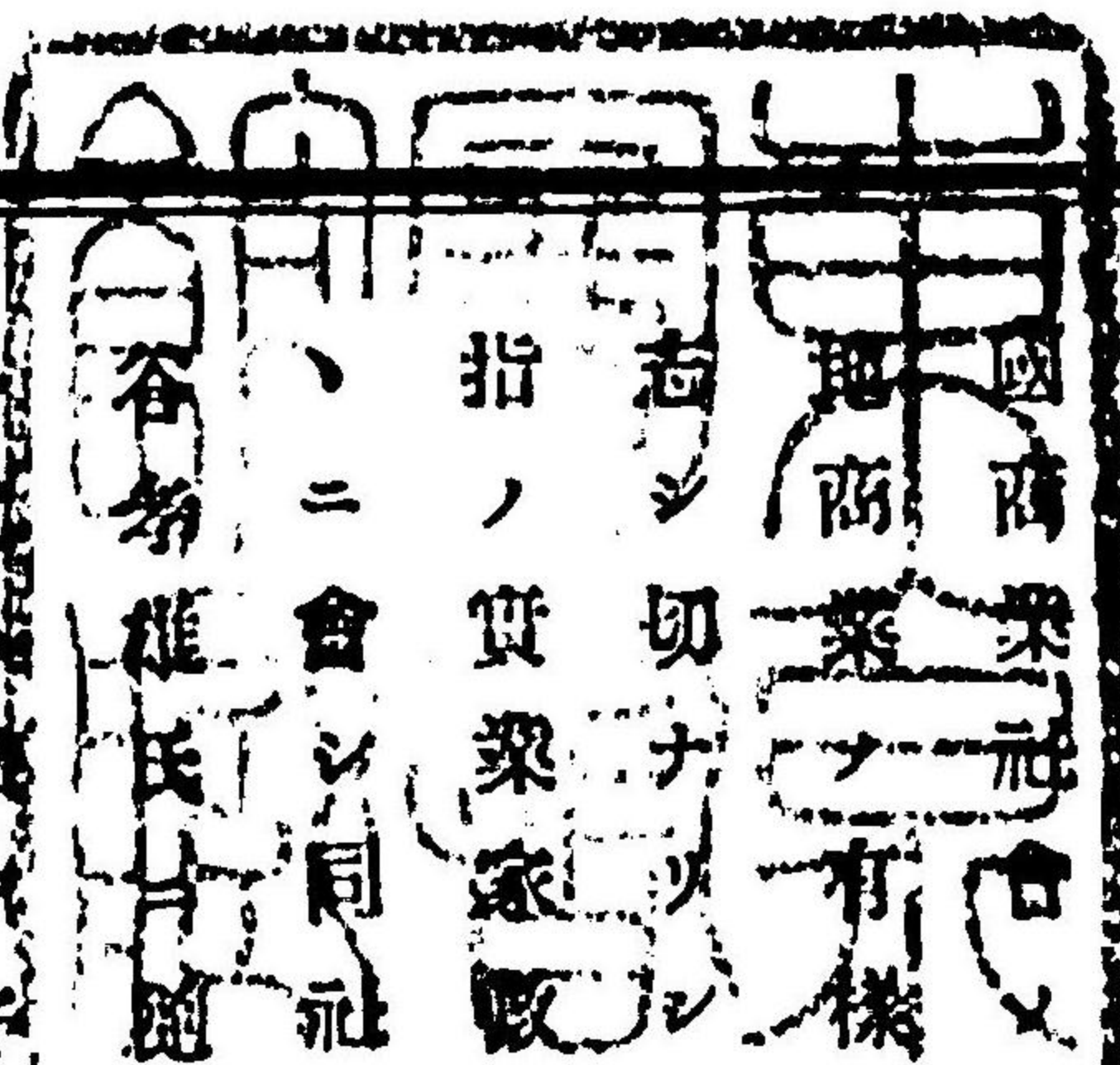
ニ會シ同社發企人諸氏ヨリ予ニ諸氏ノ代理トナリ富士

谷孝雄氏トシテ歐洲ニ赴キ製絨業取調メノ事ヲ囑托セラ

ル之ニ據テ予不肖ヲ願ヒズ直チニ之ヲ諾シ即チ發企人代

理ノ委任ヲ受ケ富士谷孝雄氏及ビ外一名發企人代理者(古

川眞澄氏)ト共ニ洋行ノ途ニ上ル





第二 明治二十年六月二十八日快晴午前十一時十分昨夜横濱ヨリ神戸ニ入港セシ佛國「メサセリマリタイム」會社ノ派船「ソオルカ」號ニ搭ズ時ニ滋賀縣知事申井弘君ヲ始メ田村農商課長發企人諸氏及ビ親屬知己數十名予ノ一行ヲ送ツテ本船ニ來ラル、船發期ニ望ミ見送リノ諸氏ト共ニ互ニ別ヲ告ケ午後一時三十分一際ノ派船ト共ニ船ノ進行ヲ始ム同船乗合ノ本邦人ハ農商務省技師谷口直貞同平賀義美東京綿商社ノ大井信吉、奥田小三郎、留學ノ目的ヲ以テ英國ニ赴カル、新田猛雄ノ五氏其他外國人ノ船客モ亦數名アリシ

第三 「メサセリマリタイム」會社(エム、エム會社)ノ表ニ依レバ乗客貨錢神戸横濱何レヨリ乗船スルモ佛國「マールセー」ル港迄ダ上等二千七百七十五法中等千六百六十法下等八百三

十法ニシテ航海里程ハ横濱ヨリ神戸ヲ經テ香港ニ至ル千六百九十三海里「マールセー」ルニ至ル九千八百五十三海里神戸ヨリ香港迄ダ千三百六十三海里「マールセー」ル迄ダ九千五百二十三海里トス

第四 出帆ノ日ハ天氣朗晴風波穏カニシテ神戸港ヲ距ル凡ソ十海里ノ海上ニ於テ「エム、エム」會社ノ氣船「タニス」號ニテ西郷農商務大臣ノ歐州ヨリ歸朝セラル、ニ相遇フ此時彼我船員互ニ拍手シテ相呼ブ、午後三時頃淡路友ガ島ノ峽間ヲ過ク、午後六時鐘ノ音ヲ聞キ船客一同食ニ就ク此日ハ終日甲板上ニ晁望ヲ專マ、ニセリ

六月二十九日 朝來風雨強ク激浪波窓ヲ打ツテ船ノ撓動烈シ昨日神戸出帆ヨリ本日正午迄ダノ航路二百二十海里午後一時頃ニ至リ風雨漸ク衰フ

六月三十日 逆風烈シク怒濤山ヲナシ船体ノ動搖甚ダシ、午前十一時頃ニ至リ雨止ニ風順ニ向フ、正午進行二百三十海里、此夜大島燈台ノ光ヲ看ル

七月一日快晴 甲板上ヨリ四望スレバ大洋港池トシテ端ナキガ如ク、此日全ク日本地方ヲ離ル、正午進行二百五十七海里

七月二日晴天 西南風正午航程二百二十二海里午後ニ至リ海上始メテ支那船ヲ看ル

七月三日晴 風波平穩ナリ正午進行二百六十八海里午後三時頃ヨリ遙カニ支那福洲地方ノ山嶺ヲ望ム

七月四日晴 午前六時支那香港ニ若ス、同八時香港ホテル附屬ノ小蒸氣船ニ移リ上陸シ直チニ同ホテルニ投ズ

第五 乗合ノ船客ニ獨乙人「キニフル」ト云フ人アリテ非

常ニ予ヲ愛セラル又航海中常ニ吾輩日本人ト交ハリ款語シ夕景ニ及ヘバ本邦ノ浴衣ヲ着ケ甲板ヲ逍遙セラル、等甚メ日本好ノ人物ニ窺ハレタリ蓋シ東西奇ヲ好ムノ人情相同ラキ故カ

第六 香港ハ澳門<sup>マカオ</sup>ノ東ニ當ル僅カニ三十平方英里ノ一小島ニシテ千八百四十一年、キヤアテン、エリオット氏ニ依テ始メテ英國政府ノ占領スルトコロトナレリ○全島ハ概チ山岳ヲ以テ成レリ、故ニ市街ハ其北方海岸ヨリ山脚ニ連ナリ級々ニ之ヲ開ケリ○家屋ノ構造ハ大抵三四層ノ石造ニシテ街路ニ面スルトコロニ空廊ヲ設ケ通路トナシ歐州風ニ東洋風ヲ兼テタル建築ナリ○街衢ハ前ニ云ヘルガ如ク地勢山地ヨリ成レルヲ以テ海岸近邊ヲ除クノ外ハ平地甚メ少ナキガ故ニ歩ヲ助クルニ橋子ト稱フルモノヲ川

ニ其状恰モ本邦ノ輿ト乘籠トナ折衷シテ作リタルモノ、  
 如ク故ニ阪路ヲ昇降スルニハ甚ダ輕便ナル乗物ノ一ナリ、  
 又本邦ノ人力車モ大ニ流行セリ、而シテ其椅子或ハ人力車  
 ノ勞働者ハ悉ク支那人ニシテ其乗客ヲ顧ミレバ十中ノ八  
 九歐米人ナリ豈ニ猛省セザルベケシヤ  
 第七 香港ノ人口ハ千八百八十六年ノ調査ニ依レバ二  
 十萬六千五百而シテ其過半ハ支那人ニシテ他ハ歐米人印  
 度人及ビ雜種人ナリ

第八 香港在留ノ日本人ハ現今殆ンド二百餘名アリト  
 雖ル其内商店ヲ開キ業ヲ營ミ居ルモノ僅カニ數名ニ過ギ  
 ズ故ニ本邦物産ノ如キモ多クハ歐米人及ビ支那人ノ手ニ  
 テ販賣セリ、而シテ其他ノ日本人ハ大概書生及ビ被雇者等  
 ニシテ又其内淫賣婦女ノ如キモ數多アリト聞ク嘆ズベキ

ノ至ナリ

第九 香港ハ設令英政府ノ所轄ニ屬スルト雖ル商業上  
 ノ景勢ヨリ云ヘバ全ク獨立自由ノ一市場ニシテ壯大ナル  
 「ドック」數多ノ倉庫及ビ各種ノ製造所等一トシテ備ハツザ  
 ルハナシ、今當港ニ在ル私立會社ノ資本金ヲ合算スレハ實  
 ニ三千五百万弗ノ巨額ニシテ現今諸株券ノ價格ハ殆レド  
 資本金額ノ一倍ニ昇レリト云フ○當港ハ山中ヨリ毎年建  
 築材料ニ用フル少量ノ花崗石ヲ産出スルノミニテ開港以  
 來四十余年ヲ經ルモ地味瘠土ナルヲ以テ今コ土地ノ産出  
 物ナシ然レル港内廣瀾ニシテ海底甚ダ深ク天然ノ良港ヲ  
 ナセルヲ以テ歐米各國ノ船舶常ニ港内ニ輻湊シテ貿易頗  
 ブル繁盛ヲ極ム○當港ト廣東ノ間ハ晝夜二回汽船ノ航通  
 アリ僅カニ六時間ヲ費スレバ廣東ニ達スルコトヲ得ル○

香港ハ所謂自由貿易港ニシテ税關ノ設ケナク故ニ其輸出入ノ物品價格等ヲ詳知スルヲ困難ナリト雖也今事實ニ就テ一ケ年貿易高ノ概算及ビ輸出入貨物ノ概算ヲ掲擧スレバ貿易高一億八千万弗歐州各國ヨリ輸入スルモノハ主トシテ金巾、綿糸、毛織物、鐵物、雜貨等ニシテ米國ヨリハ水銀、石油、麥粉、人參等印度地方ヨリハ米、鹽ヲ輸入シ清國內地ヨリハ茶、砂糖、生糸、樟腦等ヲ輸入シ本邦ヨリハ米、麥、海產物、銅、樟腦、寒天、草類、藥種、硫黃、石炭、雜貨等ヲ輸入ス而シテ其輸出品ト稱スルモノハ輸入品ノ内、港内人民需用消費スルモノヲ除クノ外ハ輸入品轉シテ輸出品トナル故ニ畢竟本港ノ輸入品ハ西洋品ノ東洋ニ向ツテ來ルモノ、輸出品ハ東洋品ノ西洋ニ向ツテ出ヅルモノト見做スモ可ナリ

第十 支那人ノ商業ニ拮智アルハ蓋シ世界人種中其比

ナカラン、且彼等商人ハ大ニ信用ヲ重シテ敢ヘテ輕卒ノ取引ヲナサズ甚ダシキニ至リテハ相手ノ人相迄ゾ調ブルヲアリ、設令ハ今甲乙商人ノ間ニ新々ニ取引ヲ始メンカ先ヅ甲ハ乙ノ人相ヲ觀察シ而シテ若シ乙ガ惡相トカ或ハ狡猾相ナルトキハ其取引ヲ見合スコトアリ乙ノ甲ニ於ケルモ亦同シ惡ノ至リト云フベシ

第十一 七月五日陰、午前八時頃聚雨車軸ヲ流ガスガ如ク、全十一時頃ニ至リテ止ム、暑熱甚ダシ、寒暖器八十九度ニ昇ル、午後一時頃「キニフル」氏ハ余等ニ新嘉坡ニ於テ再會ヲ約シ別ヲ告ケ廣東ニ向ツテ旅會ヲ發ス、要スルニ氏ハ當港ヨリ來ル八日出航ノ獨乙汽船ニ乘リ移リ亞弗利加、サンバ、ハー獨乙類ニ向ハル、ヲ以テナリ

七月六日晴 午前九時頃ヨリ平賀、谷口、大井、奥田、新田、諸

氏及ビ予ノ一行ト共ニ歩ク市街ニ採リ烟草、スリツパー及  
ビ熱帯旅行ニ要スル上<sup>ト</sup>衣(アルバカリチン)或ハ廣東絹ニテ作  
ルサ宜シトス(等)其他船中心要物ヲ買フ、時ニ途上予ト古川  
氏トハ草壁商店(日本人ノ雜貨店)ニ立寄り、糺ニ予等ガ神戸  
出帆ノ際後藤ヨリ托セツレシ物品ヲ届ケヤリ夫ヨリ大井、  
奥田、新田ノ三氏ト共ニ杖ヲ、ヅキクトリア公園ニ曳ク、園ハ  
崗陵ニ倚リ溪谷ニ勝ガリ樹木鬱蒼シテ空ヲ覆ヒ身自カツ  
仙境ニ入ルノ心地セリ、夫ヨリ登リテ山腹ニ至レハ驟然ト  
シテ港内ノ風景眸中ニ集リ其山水ノ明暗筆紙ノ克ク盡ス  
トコロニアラズ、午后一時一同旅館ニ歸ヘル、午后四時草壁  
氏余等ヲ訪フテ旅館ニ來ラル

第十二 七月七日朝來細雨霏々トシテ滴リ炎熱甚メレ  
温九十一度、全八時頃雨止ニ西南風起ル、午前九時二十分一

行ノ八名共ニ旅館ヲ出立シテ棧橋ヨリ「ホテル」附属ノ小蒸  
涼船ニテ本船「エムエム」會社ノ涼船「イワワデ」號ニ上ル時  
ニ草壁氏予等ヲ送ツテ本船ニ來ラル、夫ヨリ乗客各々室ヲ  
定メ荷物ヲ据ヘ附ケル等一時雜忙ヲ極メタリ

第十三 本船「イワワデ」號ハ三千五百四十六噸、二千四  
百馬力、三本牆、長サ凡ソ四百八十「フット」短凡ソ四十六「フット」  
トノ鐵船ニシテ之ヲ糺ノ「ヴォオルガ」號ニ比スレバ船中室内  
ノ華美其他構造万端大ナル差アリテ實ニ堅牢宏大ノ船ナ  
リ

第十四 當港ヨリハ歐洲人ノ新ニ本船ニ乘リ込ムモノ  
顆ダシ且ツ又數十名ノ支那人甲板乘客ハ甲板ニ椰樹皮ヲ  
以テ苫ヲ作り其内ニ蟄居セリ、而シテ彼等ノ多クハ勞働者  
ニシテ安南及ビ新嘉坡地方へ出稼ニ赴クモノナリ、今彼等

ノ状ヲ看ルニ恰モ我邦ノ乞食穢多カ食物ヲ乞フ如ク船客  
 食事ノ殘物或ハ料理厨ノ肉類野菜ヲ船員ニ乞ヒ之ヲ食フ  
 故ニ船員水夫等時ニ或ハ之等ノ支那人ヲ嘲弄シ或ハ己ガ  
 食フトコロノ麵包ノ小片ヲ彼等ニ投ケ附ケ甚ダシキニ至  
 リテハ彼等ノ前ニ唾スルモノアリテ其所爲實ニ惡ムベキ  
 ガ如クナレド畢竟彼ノ支那人等ガ自カラ招クトコロコシ  
 テ敢ヘテ水夫等ヲ答ガムルニ足ラズ、今若シ彼レ支那人等  
 ノ行爲ヲシテ斯ク鄙野ナラザラシメバ誰刀漫リニ彼等ヲ  
 侮辱スルモノアラシヤ、回顧スレバ先年夫ノ英船ノ「イマン  
 トン」ノ我が紀州沖ニ於テ沈没セシヤ當時我が同胞二十八  
 名ハ無慚ニモ悉ク之ヲ紀海ノ魚腹ニ葬ラシメタリシニモ  
 拘ハラズ該船乗組員ハ船長始メ水夫火夫ニ至ルマデ皆一  
 命ヲ免ガレタリシガ如キモ當時該船乗組員等ガ我が乗客

ニ對スル取扱ヒノ輕忽ナリシヨリ逐ニ右ノ始末ニ至リシ  
 モノナラン嗚呼彼等赤鯺奴ノ所爲豈ニ惡ムベキニアラズ  
 ヤ然レド一步ヲ退ヒテ考フレバ當時我が同胞各自ノ注意  
 ノ足ラザルトコロモ亦ナキニアラズ、之レ既往ノ事ニシテ  
 今更嘆クモ恐ニ似タレバ願クハ後來我國人ノ外國船ニ乘  
 込マント欲スルモノハ深ク此邊ニ注意セザルベカラズ、夫  
 ノ所謂一文惜ミノ百知ラズト云フガ如キ「ナキロウ」望ム  
 トコロナリ

第十五 午前十時頃ニ至リ天全ク霽レ涼風颯々トシテ  
 甲板ヲ掃キ殆ンド暑ヲ忘ル、ニ至ル、船發期ニ望ミ草壁氏  
 子等ニ別テ告ケテ去ル、又支那人數多ノ小艇ヲ打テ本船ニ  
 蟻附ス、各艇藤椅子或ハ種々珍奇ナル小鳥ヲ籠ニシ之ヲ載  
 セ互ヒニ争フテ船客ニ之ヲ買ハン「ナキ」勸ム、手籠ノ一行モ

各々長椅子一脚ツ、ヲ購ヘリ、椅子ハ竹ヲ以テ骨子トナシ  
 籐ニテ細ミ作レリ、而シテ價ハ一個ニ付予報等ハ一弗二十  
 五仙ヲ拂ヘリ、正午十二時船錨ヲ拔キ港口ヲ出デ諸島ノ間  
 ヲ駛行ス眺望頗ル佳ナリ、午後二時頃ヨリ西南風起リ浪濤  
 見ル間ニ山ヲナシ船撓動ヲ始ム、午後七時頃ヨリ吾輩八名  
 ノ本邦人ハ各々椅子ヲ甲板ノ艦ニ集メ互ニ談笑シテ傍ハ  
 ラ人ナキガ如シ、他ノ洋人船客ノ狀ヲ顧ヨルモ亦同ク、此夜  
 海上暗黒尺ヲ辨セズ故ニ本船ハ衝突ヲ避ケンガ爲メカ  
 間斷ナク汽笛ヲ放ツテ進行ス、其狀頗ブル活潑ニシテ余モ  
 計ラズ壯快ヲ覺ヘタリ、午後九時頃ニ至リ本船ヲ隔ツル僅  
 カナル海上一ツノ漁船ニ相遇セリ、然レモ只メ其漁笛ノ聲  
 ヲ聞クノモニテ船体ヲ見ル能ハズ

第十六 七月八日美晴風波穏カナリ洋中渺トシテ見ル

ヘキモノナシ、正午航程二百九十九海里、此日子船中ニ設ケ  
 ル海水ノ浴ニ入ル、浴室内ニハ大理石ヲ以テ作リタル脩圓  
 形ノ盤盥アリ、其側ハツニ二條ノ鐵管アリテ各管口ヲ盤盥  
 中ニ引キ入ル、而シテ其一ツハ蒸氣ヲ送ル管ニシテ他ノ一  
 ハ海水ヲ注送スル管ナリ、又天井ニハ大如露アリ側ハツナ  
 ル手ヤヲ捻レバ海水瀑ノ如ク浴人ノ頭上ニ落テ來ル、又室  
 内ノ一隅ニ洗嗽ノ石盥アリテ充分快樂ナル浴場ナリ

七月九日薄晴 午後一時頃細雨アリ四風烈シク吹キ來  
 ル、正午進行三百四十海里、午後六時頃ニ至リ遙カニ安南地  
 方ノ山嶺ヲ望ム、夫ヨリ船漸次陸ニ沿フテ駛行ス

第十七 七月十日美晴午前六時頃ヨリ海波頓ニ平穩ト  
 ナリ潮流渾濁タリ、之レ有名ナル巨河「カンボウヤ」河流ノ海  
 ニ注グトコロナリ、此地方ハ河東ノ一岬ニ一脈ノ峻嶺突兀

セルノミ他ハ一望皆廣漠タル平澤ナリ、忽チコシテ船河口  
 ニ入ル、流ヲ遡ル、凡ソ三十里、其間兩岸皆駁叢及ビ灌木ノ  
 澤地ナリ、時ニ河ノ左岸ナル叢中ニ二三猿猴ノ戯ハムレ遊  
 アテ看ル、聞ク此地方ニ猿猴ノ生棲スルコト類々シト、午前  
 九時安南西貢府ニ着シ船ヲ河岸ノ棧橋ニ繫ケ  
 第十八 「カンボジヤ」河ハ一ニ「サイゴン」河トモ云ヒ河幅  
 狭キトコロコト凡ソ百二十間余、廣キトコロハ五百間余ア  
 リテ河水常ニ渾濁トシテ一望底淺キガ如シト雖ハ大船巨  
 艦モ故障ナク往來スルヲ以テ其深キヲ推シテ知ラル、ナ  
 リ支那地方ニアル河流ハ概テ水源ノ遠キガ故ニ随ツテ流  
 勢滯カニシテ河底甚ダ深ク常ニ渾濁タリト云フ  
 第十九 午前十一時上陸馬車ヲ雇ヒ馬丁ニ命ズルニ郵  
 便局ニ赴ク、コトヲ以テス彼レ直チニ點頭シテ鞭ヲ賜マシ余

輩ヲ導ビキ市外ナル一ノ公園ニ至リ車扉ヲ開キ形容以テ  
 予輩ニ車ヲ下ランコトヲ促ガス蓋シ彼レ予輩ノ言語(之ノ時  
 英語ニテ話ス)ヲ解セザリシヲ以テ遂ニ之ニ至リシモノナ  
 ラン、予輩己ムヲ得ズ車ヲ出テ歩シテ園内ヲ從覽スレバ樹  
 木鬱々トシテ天ヲ覆ヒ幽邃ヲ極メリ、又園内所々ニ鐵柵ヲ  
 以テ造リタル檻アリ、虎豹其他熱帶地方ノ獸類ヲ飼養セリ、  
 夫ヨリ一行再ヒ車ニ上ル時ニ予自カラ投セント欲スルト  
 コロノ書簡ヲ「ポケット」ヨリ取出シ之ヲ馬丁ニ差示シ再三  
 彼レニ郵便局ニ赴クコトヲ意味セリ彼レ漸ク其意ヲ解シ直  
 チニ鞭ヲ打ツテ局ニ達ス、即チ車ヲ下リ局内ニ入り傍ヲニ  
 在ル一吏(土人)ニ書ヲ示シ幾許ノ切手ヲ貼用シテ可ナルヤ  
 ナ間ヒシニ吏モ亦予等ノ言ヲ解セズ、此ニ至リ遂ニ己ムヲ  
 得ズ書簡ヲ「ポケット」ニ納メ直チニ船ニ歸リ船中ノボーイ



ニ之ガ投函ヲ托セリ、時ニ予大ニ佛語ノ必要ヲ感ラタリ、故  
ニ向後外國人ノ此地ニ渡來セント欲スルモノハ英語ヨリ  
ハ寧ロ佛語ヲ心得居ル方便宜ナリ

第二十 西貢ハ佛國領ニシテ安南國ノ首府ナリ、人口凡  
ソ七萬アリテ保護貿易地ナリ、此地ニ移住スル外國人ニハ  
人頭稅ヲ課ス○一ケ年ノ貿易高ハ二千八百萬弗ニシテ尙  
ホ追々増加ノ勢アリ○市街ハ左ノヨ繁盛ナシズト雖モ佛  
國陸海軍ノ屯營造船所等見ルニ足ルベキモノアリ而シテ  
佛國政府ハ益々此地ノ植民ヲ獎勵セラル、者ノ如シ○土  
人ハ骨格甚ダ日本人ニ似タリ、然レモ總体平面低準色黒ク  
唇厚ク細民ハ男女共ニ摺椰葉ヲ囓ムヲ以テ其齒眞黒恰モ  
鐵漿水ヲ塗リタルガ如シ、彼等ノ衣服ハ畧ホ支那人ノ服ト  
大同小異ニシテ頭髪ハ梳リテ頂上ニ結ビ大ナル櫛ヲ刺ス、

故ニ一見シテ男女ヲ辨シ難シ、又此地ニハ支那人ノ移住ス  
ルモノ頗ダシク其數殆ンド全人口ノ過半ニ及ブ

第二十一 本船ノ西貢府ニ着スルヤ二三ノ土人各々手  
ニ麻布ニテ作りタル錢袋ヲ携へ來リ船客ニ貨幣ノ商換ヲ  
勸ム、時ニ予本邦ノ一圓銀貨ヲ取り出シ試ミニ之ヲ當地ノ  
通貨ニ交換セント欲セシガ今彼等ノ携フルトコロノ貨幣  
ヲ看レバ悉ク本邦ノ銀貨ナリシヲ以テ遂ニ之ガ商換ヲ止  
メタリ、蓋シ此地ニ於テハ本邦銀貨盛ンニ通用セリ

第二十二 昨日正午ヨリ西貢着迄ノ航程二百八十里

第二十三 七月十一日快晴西風強シ、昨夜西貢碇泊船中  
ニ寢レリ、早朝佛人男女數十名新ニ本船ニ投セリ、又多量ノ  
米穀、亞麻及ビ棉ヲ搭載シ午前八時纜ヲ解ヒテ發ス、午後七

時頃驟雨雷鳴海上暗黒尺尺ヲ辨セス心中頗アル壯快ヲ覺

ユ

七月十二日快晴美風 正午進行三百四十海里洋中茫乎

トシテ終日見ルモノナシ

第二十四 七月十三日曇天微風午前六時頃ニ至リ左舷

ニシユモトク島右傍ニ後印度地方ノ山脈ヲ望ム午前九時

三十分新嘉坡石炭司前ノ棧橋ニ船ヲ繫グ○

第二十五 本船ノ港内ニ泊スルヤ土着ノ幼童等長サ二

三尺ノ木ヲ穿テ作リタル小艇數雙ヲ浮ベ來リ船客ヲシテ

銀錢ヲ海中ニ投センコトヲ慾ム客之ニ應シ齧銀ヲ投ズレバ

彼等互ニ競フテ海中ニ躍リ入り水中ヲ潜グリ之ヲ拾ヒテ

一モ失フトコロナシ之レ亦旅中ノ一奇觀ナリキ

第二十六 昨日正午ヨリ本日新嘉坡着船迄ダノ航程三

百二十七海里

第二十七 午前十一時頃ヨリ同行八名共ニ上陸ヲナシ

相携ヘテ新嘉坡市街ヲ散步シ先ツ公園ニ至ル園ハ熱帶ノ

樹木鬱叢シテ珍草奇花所々ニ坡紛シ本邦ニ於ケル樹木花

草繁茂ノ有様ト全ク其觀ヲ異ニセリ夫ヨリ市街所々ヲ巡

覽シ午后四時本船ニ歸リ看レバ數多ノ土人甲板ニ大風呂

敷テ披ク其上ニ帽子「ハンカチース」シヤーツ其他雜貨ヲ攤

列シテ船客ニ販ク其内「ハンカチーフ」雜貨ノ如キハ大低日

木製ナリシ

第二十八 新嘉坡ハ英國ニ屬シ馬來半島ノ南端ニ在リ

面積二百六平方英里ヲ有スル一小島ナリ○港口ニハ大小

ノ島嶼點綴風景頗アル住ナリ○市街ニアル家屋ハ支那人

ノ居住スルモノ多キガ故ニ左ノヨリ清潔ナラズト雖モ裁判

所、兵營、博物館其他公設ノ建築物ハ何レモ結構壯麗ナリ○  
 市中ニハ輕便鐵道トランジットノ設ケアリ其他馬車人力車等歩ヲ助ク  
 ルノ用具備ハレリ○市街ニ開キタル商店ノ過半数ハ支那  
 人ノ營業ニシテ其他ハ歐米人印度人及ヒ土人(馬來人)ノ開  
 クトコロナリ、○市中ニ日本人ノ商店ヲ開キ我が雜貨ヲ露  
 グモノ儘カニ長崎ノ佐藤某一人アルノミ、之レトナモ實ニ  
 一小賣ニ過ギズ故ニ船便毎ニ本邦ヨリ輸入スル巨額ノ雜  
 貨ト雖モ大低支那人ノ手ニテ販賣セリ我當局ノ南人豈ニ  
 奮發セザルベケンヤ○市中ニ馬來街マレーストリートト云ヘルトコロアリ  
 此街ニハ二百餘名ノ本邦人居住セリ而シテ彼等ハ悉ク年  
 少ノ賤婦ニシテ色ヲ外國人ニ賣ルモノ、如シ、斯ク本邦人  
 ノ此地ニ鬼業ヲ稼グモノ多キガ故當地ニ於ケル本邦人ノ  
 信用ハ頓ニ地ニ落チ其害ヤ遂ヒニ當地ト本邦トノ間ニ行

ハル、貿易上ニ迄グ及ボシ歎ズベキノ至リナリ、故ニ彼等  
 ナシテ一時モ早ク此地ヲ去リシメザルベカラズト雖モ當  
 地ハ因ヨリ英國ノ所轄ニシテ治外法權ノ行ハレザル所ナ  
 レバ直接ニ我政府ヨリ手ヲ下シ彼等ヲ放逐スルヲ能ハズ  
 要スルトコロ彼等婦女ハ曩ニ一時盛ンニ上海ニ於テ醜業  
 ナ稼ギナリシガ當時上海在留我が領事ヨリ嚴シク彼等ノ  
 渡航ヲ禁ゼシノヨリナラズ上海居住ノ淫賣婦女ハ悉ク之ヲ  
 放逐セシヨリ爾來彼等ハ香港或ハ當地ニ密航セシモノナ  
 シ○土人(即チ馬來人種)ハ銅黑色ニシテ性質頑固怠惰ナ  
 リ衣服ハ綿布ノ一片ヲ腰部ニ卷キ洗足裸体一目シテ男女  
 ナ別チ難シ

第二十九 新嘉坡ノ人口ハ凡ソ十五萬ニシテ支那人、馬  
 來人、印度人、安南人(ヒンナン)人及ヒ歐州人等種々雜居セリ

其内支那人最も多數ヲ占ム  
 第三十 新嘉坡ハ港内水深ク海岸ニハ延長凡ソ三百八十間幅八間余ノ棧橋ヲ沿架シ大船巨舶モ直クニ之ニ繋グベク故ニ西ハ印度、歐州東ハ安南、ヒリピン、支那及ヒ日本、南ハマヤツア、ポーチヲ、漳州及ヒ其他ノ南洋諸島ニ往來スル船舶常ニ港内ニ繋泊シ東西南貿易ノ咽喉ヲ占ム、故ニ歐州人ハ當港ヲ稱シテ東洋ノ「リハブール」トモ云フ○本港モ亦自由開港ニシテ只ダ船舶一噸ニ付一片半ノ燈台費用ヲ支拂フノヨニテ船舶ノ入港自由ナリ○本港ニ於ケル輸出入品有様ハ香港ト同一輸出入常ニ輸轉シテ端ナキガ如シ、今千八百八十四年ノ統計ニ依レバ輸入高七千九百五十七萬二千三百八十弗輸出高六千五百十六萬三千九百七十三弗ニシテ其内主要ノ輸出入品額左表ノ如シ

	輸入高	輸出高
一 珈琲	六一三、〇〇八 弗	五七六、二六三 弗
一 ヨアラ	一、三二三、五二五	一、一九七、三二〇
一 石炭	三、五六〇、四四四	五八、五四一
一 綿	九、四八八、一二四	七、一七六、四九五
一 魚類	二、七一〇、六一三	一、九一〇、四三七
一 ガンピア	四、六二一、〇三一	五、九二九、六九七
一 米	六、〇七六、一一五	五、二二三、〇三四
一 ガツタ	一、八六九、一五三	二、〇二九、四〇二
一 皮類	一、一一五、一二七	七、一五、六〇九
一 錫	四、〇八三、一二五	三、八四八、八〇三
一 鴉片	五、〇五九、一三五	三、八六九、三七八
一 黒胡椒	二、五九五、七八三	二、七八二、二三八

第三十一 去ル八日香港ヲ出帆セシ獨乙漁船當港ニ若  
 セリ、依テ予ハ直チニ該船ニ赴キ「キニフル」氏ヲ訪フ、氏大ニ  
 喜ンデ酒肴ヲ以テ予ヲ款待セリ、此ニ至リ相互ニ健康ヲ祈  
 リ別ヲ告ケテ予ハ本船ニ歸ヘレリ

第三十二 午後六時本船纜ヲ解キ進行ヲ始メ漸次「マ」  
 ヲカ「梅峽」ニ入ル、是ヨリ幾キ「キニフル」氏ノ乗船セル獨乙漁  
 船モ亦錨ヲ拔ヒテ新嘉坡ヲ發ス、該船ノ港口ヲ出ヅルヤ乘  
 組海軍樂隊ノ奏樂アリ其狀頗ル壯快ナリキ

七月十四日快晴 苦熱ニ堪ヘズ如何ニモ身赤道直下ニ  
 アルコチ感ズ、温器百九度ニ昇ル、正午航程二百四十海里北  
 緯三度二十七分東經九十度二十二分ノ所ヲ走ル、昨日ヨリ  
 今日ノ航路ヲ赤道最近ノトニロトス、夜來涼風吹キ來リ稍  
 々快ヲ覺ニ、然レモ室内ハ暑熱未ダ蒸スガ如シ、午後七時頃

ニ至リ船客男女甲板ニ集リ舞踏ヲナス

七月十五日晴天 南風烈ク船ヲ襲フ、正午航程三百五十  
 一海里、昨夕以來船海峽スラットヲ駛行シ右ハ馬來半島左ニハ「シ」ニ  
 モ「ク」島ヲ望ミ風景殆ンド掬スルガ如シ

七月十六日晴 正午航程三百二十海里、午後四時頃ニ至  
 リ一天見ル間ニ掻キ曇リ驟雨雷光ト共ニ船ヲ掠メ洋中山  
 ノ如キ怒濤ノ外見ルモノナシ

七月十七日快晴 西南風強シ怒濤甲板ニ打テ上リ船体  
 ノ動搖甚マシ、正午進行三百十海里、一昨夜爾來船ヲ印度洋  
 ニ乘リ出シ大洋ノ潮ハ天ヲ打ツテ渺茫極端ナキガ如シ、午  
 後四時頃ニ至リ雨止ヨ風漸ク衰フ、此日々暈ナルヲ以テ午  
 後六時頃ヨリ船客中ナル僧侶(佛人)數名船中ノ空所ニテ十  
 字架ヲ捧ク札拜ヲ行フ

第三十三 七月十八日美晴拂曉甲板ニ上リ西北ヲ眺望スレバ錫蘭島中ノ山嶺雲際ニ聳ヘ巨濤岸ヲ打ツテ恰モ白馬ノ連驅スルガ如シ、去ル十六日爾來船体常ニ怒濤ノ爲メニ撼動シテ今ニ止マズ、本日正午ノ航程二百八十五海里、而シテ錫蘭島「コロンボ」迄「グ」ノ殘程僅カニ六十六海里ナリ、午後六時「コロンボ」港ニ着ス、船ノ港内ニ錨ヲ投ズルヤ數多ノ土人小艇ヲ打ツテ蟻附シ船中ニ來ル、宿引アリ舢舨ノ舟夫アリ洗濯屋アリ、案内者アリ、彼等ノ内ニハ既ニ予輩ノ日本人ナルヲ知リテカ余輩ニ向ツテメンナオハロウト呼ブ者アリ、蓋シ旦那御早ノ意ナラン、而シテ各々客ヲ爭フテ其聲喧シク厭フベシ、彼等ノ内洗濯屋及ビ案内者ハ各手薄ヲ客ニ示ス予之ヲ披キ見シニ從前當地ニ寄港セシ數多ノ本邦紳士其姓名ヲ記シ側ハラニ日本字ニテ之ノ洗濯屋ハ仕

亦下手ニシテ且ツ貨錢ヲ食ホルコト甚ダシト記セルアリ或ハ此案内者ハ至極不深切ニシテ且ツ過分ノ料ヲ食ホル故ニ向後寄港ノ諸氏宜シク注意スベシ等記載セルモノアリテ胞服ニ堪ヘザリシ、然レル彼等ガ自己ノ營業ニ斯ク勉強スルトコロヲ見レバ亦感ズベキノ至リナリ、我國海港場ニ住ム人々ハ外國船ノ入港ヲ餘外事ニ思ハズ宜シク先テ爭フテ彼ノ船ニ蟻附シ進ンテ各自ノ業ヲ營メヨカシ、願フニ本邦人ハ兎角因循倦怠ニ流シ安ク敢ヘテ進取ノ氣象ニ乏シキハ實ニ嘆ズベキノ至リナリ

第三十四 七月十九日晴午前十一時頃ヨリ船體ニ移リ棧橋ニ上レバ數多ノ馬車夫爭フテ乗車ヲ挑ム其聲騒然タリ、時ニ一名ノ巡查(英人)來リ彼等ヲ制止ス、此ニ至リテ漸ク鎮靜セリ、夫ヨリ一輛ノ馬車ヲ雇ヒ市街及ビ公園ヲ散驅ス、

市ノ西北ニ當リ肉桂園ト云フ公園アリ、園内多クノ肉桂樹繁茂セリ、故ニ名ヅク、園ニ入レバ少年ノ土人肉桂ノ枝葉ヲ折リ來リ余輩ガ乗ルトコロノ車中ニ投ソ以テ錢ヲ乞フ、誠ニ五月蠅トナリシ、園ノ中央ニ一ノ博物館アリ館内ニハ印度錫蘭古代ノ寶物、土人ノ工藝品及ビ浮屠氏ノ參考ニモナルベキ古奇物ヨリ其他熱帶ノ動植物類等大抵備ハラザルモノナシ、午後四時頃ニ至リ本船ニ歸ヘル

第三十五 「コロソボ」ハ英領ニシテ錫蘭島ノ西南端ニ在リ、港口ニハ長サ三百間余ノ堅牢無比ナル阜頭アリテ船艘ノ錠泊平穩ナリ、故ニ港内常ニ帆船林立貿易繁盛シ極ム、○市街ニアル歐洲人ノ居室ハ何レモ結構宏麗ニシテ大ナル庭園ヲ扣ヘ樹木叢々珍草奇花、園内所々ニ紛披シテ異禽枝葉ノ間ニ翔飛シ實ニ極樂世界ノ觀アリ、然レモ土人ノ有樹

ヲ願ミレバ概チ貧窶ニシテ椰子樹皮ヲ以テ葺キタル俵屋ニ起臥セリ、嗚呼英人一タビ此地ヲ領セシヨリ爾來遺利ハ悉ク彼等ノ爲ニ拾ハレ土人ハ恰モ彼等ノ奴隸ノ如クニシテ生涯頭角ヲ上グル能ハズ誠ニ怒ムセキニ似タレモ所謂優勝劣敗ノ勢然ラシムルトコロナレバ將々誰サカ咎メシヤ

ニ猛省セザルベケンヤ、○土人ハ銅黒色ニシテ洗足裸躰腰部ニ綿布ヲ纏フトコロヲ看レバ馬來人ニ似タレモ其骨格概シテ歐洲人ト同一ナリ、土人ノ女ハ小鼻ニ金屬ノ小環ヲ嵌メ男女共ニ頭髮ニ大ナル櫛ヲ刺ス

第三十六 「コロソボ」ハ熱帶ニ位スルト雖モ氣候甚メ健康ニ適シ毎年平均正午ノ溫度華氏ハ十一度ナリ

第三十七 「コロソボ」主人ノ手藝品ハ金、銀、寶石、琥珀細工及ビ扇子、席、陶器等ナリ其他土人ハ彫刻物及ビ箱細工ニ巧

ミナリ

第三十八 「コロソボ」港ヨリ輸出スル物ハ茶、黒鉛、珈琲、米  
 ナ主トシ金、銀、珠玉、寶石、象牙、鼈甲、魚貝類其他熱帯ノ植物等  
 ニシテ輸入ハ棉布ヲ以テ主トシ石炭、酒類、鐵器及ビ雜貨等  
 ナリ而シテ輸出品ノ内十中ノ八九ハ英國及ビ合衆國ニ向  
 フテ出ヅ

第三十九 七月二十日美晴正午十二時上陸馬車ヲ驅ツ  
 タ「コロソボ」市街ヨリ五英里内地ナル釋迦ノ靈場ニ赴ケハ  
 該部落ノ酋長山ダ來リ予輩ヲ一ノ寺院ニ案内ス、寺僧ハ洗  
 足ニシテ黄色ノ棉布ヲ以テ左肩ヨリ掛ケテ腹部ヲ包ヨ腰  
 ニ垂ル其狀恰モ生タル羅漢ノ如シ、我國僧侶ノ用フル袈裟  
 ハ蓋シ之ヨリ傳ハリシモノナラン、堂内ハ悉ク土間ニシテ  
 入口ノ正面ニ釋迦ノ木像ヲ安置シ其左右ニ種々ノ佛像ヲ

配列セリ、土人ハ其像前ニ詣フダ種々ノ花草ヲ捧ケ香ヲ薫  
 ラシ禮拜ヲナス、予此堂内ニ入ルヤ恰モ本邦ニ於ケル黄蘗  
 派ノ寺院ニ入ルノ心地セリ、堂ノ二階ニハ無數ノ經本アリ、  
 其内ニハ竹筒ヲ編ヨテ之ニ經文ヲ彫刻シタル古代ノ經本  
 アリシ、堂内ヲ巡覽シ終ツテ酋長ハ予輩ヲ導ビキテ堂外ニ  
 アル一ノ椰樹皮ヲ以テ葺キタル小屋ニ至ル、之レ土人ノ舞  
 踏場ナリ、今土人舞蹈ノ有様ヲ記サンニ彼方ノ小屋ヨリ舞  
 々ノ如キ假面ヲ被リ全身裝ヲ以テ覆ヒタル一名ノ土人躍  
 リ出ヅ、之ニ引次ギ數名ノ土人各々種々ノ樂器ヲ携ヘ來ル、  
 夫ヨリ彼ノ舞々裝ヲナシタル土人地上ヲ匍匐シ或ハ逆シ  
 マニ立チ或ハ轉ビ或ハ舞フ、時トシテハ地上ヨリ凡ソ七八  
 尺ノ高キトコロニ身ヲ飛ハス、此間側ハヲナル數名ノ土人  
 ハ絶ヘズ大鼓、鐘、柏子木、ノ類ヲ鳴ラシ高聲ニテ土人ノ歌ヲ



諸ヒ雌シテ興ヲ添ニ、踊終リテ酋長ハ林中ナル椰實ヲ採リ  
來リ予輩ニ之ヲ進メ款待悉セリ、此ニ於テ一同酋長ニ謝シ  
借路ヲ船ニ歸ヘル

第四十 本船ノコロソボ港内ニ錠泊中タルヤ土人ハ種  
々ノ寶石、指環、耳環、ビシ、ブローチ、象牙、鼈甲細工等類シク船  
中ニ持テ來リ船客ニ之ヲ鬻ク、而シテ彼等ハ驚クベキ掛直  
ヲ云ヒ或ハ偽物ヲ賣リ附ケル等少シモ油斷ナラズ後來將  
港ノ諸士宜シク注意スベシ

第四十一 七月二十一日快晴、午前九時エム、エム會社ノ  
瀛港、カルカッタ、コロソボ入港セリ、此ニ至リ該船ノ郵便物、荷物  
船客ヲ轉載シ午後十一時鋪ヲ扱テコロソボ港ヲ發ス  
第四十二 七月二十二日快晴、正午進船百三十四海里洋  
中渺茫トシテ見ルベキモノナシ

七月二十三日美晴 正午航程三百七海里、渺々タル湖水  
ノ外見ルモノナシ

七月二十四日曇 朝來西南風強シ、木日々囁ナルヲ以テ  
午前七時ヨリ例ノ如ク船中ノ僧侶札拜ヲ行フ、正午ノ進航  
三百九海里、午後ニ至リ驟雨屢々來ル

七月二十五日晴 午後ニ至リ疾風吹來リ城壁ノ如キ大  
浪ハ船ヲ打テ船体ノ動搖甚ダシ、正午航程二百七十八海里  
洋中終日見ルモノナシ

七月二十六日晴 西南風烈シク巨濤山ヲナシ、擊浪甲板  
ヨリ一層上ニアル「テント」ヲ洗フ、故ニ船休時々波間ニ没シ  
將ニ覆ヘラントスルガ如シ、船客殆ンド顔色ヲ失フ、此日船  
中ニ掲ゲアル搖垂ヲ見シニ最高度七十五度ニ傾斜セリ、正  
午進行二百八十八海里、洋中山ノ如キ激浪ノ外見ルベキモ

ノナシ

七月二十七日晴 風濤今ニ烈シ、ク船体ノ撼動昨日ヨリ  
 晝夜打テ續ケリ、正午進航三百二十三海里、午後二時頃ヨリ  
 「ソコトウ」島ノ北ヲ駛行ス、此ニ於テ風波漸ク衰ハルヘ船客生  
 ニ回ヘル、午後六時頃飛魚躍ツテ甲板ニ上ルモノ三ツ  
 七月二十八日快晴 正午進行二百八十八海里、而シテ  
 亞丁迄ノ殘程二百九十海里、洋中茫乎トシテ見ルモノナシ  
 七月二十九日晴 午後一時亞刺比亞國亞丁「アグント」呼  
 ブハ誤謬ナリ、「スカー」ムポイント「港」ニ着ス、予等此度ハ上  
 陸ヲナサズ故ニ市街ノ狀況等之ヲ記スルニ由ナシ、然レモ  
 今甲板上ヨリ眺望スルトコロニ依レバ土地皆赫岩ニシテ  
 草木生セス殆ソト生氣ヲ絶ツノ地ナリ○此地固ト紅海ノ  
 咽喉ニ當リ歐洲ト東洋ノ貿易ヲ總括スルニ無二ノ地勢ナ

レバ英國ハ疾ニ之ヲ占領シ今「スカー」ムポイント「港」ヲ開  
 キ砲臺ヲ築キ兵ヲ置キ之ヲ守ル、聞クトコロニ依バ亞丁市  
 街ハ當港ヨリ凡ソ二英里ヲ去ル内地ニアリト、又此地方降  
 雨甚ダ稀ニシテ三年目ニ一回位ナルヲ以テ飲料水ノ如キ  
 ハ當港ヨリ四英里内地ナル溜池ヨリ鐵管ヲ引テ市内ニ供  
 給スト云フ○土人ハ銅黑色ニシテ洗足裸體、頭髮茶色ニテ  
 短縮セリ故ニ一目シテ其性慍悍ナルヲ知ルニ足レリ○船  
 ノ港内ニ泊スルヤ土人ハ蛇鳥ノ羽、獸皮、彫木細工其他種々  
 ノ土産ヲ船中ニ鬻グリ○午後五時三十分出帆  
 第四十三 七月三十日、薄陰、昨夜「バゲルマン」ゾ「海峽」ヲ  
 過キ無數ノ島嶼所々ニ散在セルヲ見ル、朝來海上濛乎トシ  
 テ眺望ニ惡シ、午前十時頃船ヲ去ル僅カノ巨離ニ於テ數多  
 ノ海鹿浮游セルヲ看ル、此日微風アリシト雖モ苦熱ニ堪ヘ

ズ之レ他ナシ此地方ハ亞刺比亞或ハ亞弗利加ノ大砂漠  
リ熱風ヲ吹キ送ル故ヲ以テナリ、正午ノ進航二百三十海里  
寒温器百十度ニ騰ル

七月三十一日晴

微風アリ炎熱今ニ甚ダシ温器百十五

度ニ昇レリ、午前九時頃本船ノ右傍凡ソ二海里ノ洋上一ノ  
漁船南方ニ向ツテ進航スルモノヲ看ル同十一時三十分頃  
佛國郵船ノ東洋ニ向ツテ進行スルモノト相遇フ、本日正午  
ノ進航二百九十四海里

八月一日晴

昨日ヨリ船「アピシニア」國ノ沖合ヲ航行シ

時々島嶼ヲ見受ケタリシガ何レモ名アル程ノ島ニアラザ  
リシ、此日至夏線ヲ過ク、正午ノ航程三百十七海里、夜來頗  
涼風來ル

八月二日快晴

午前十一時頃ニ至リ西方ニ「エツプト」國

ノ山嶺ヲ望ム、正午進行三百十四海里蘇士迄<sup>スエズ</sup>ノ殘程百五  
十四海里、午后一時頃船ノ右傍亞刺比亞國ノ海岸ニ當リ彼  
ノ耶蘇ノ舊跡ヲ以テ有名ナル「シナイ」山ヲ望ム、此日船海中  
漁船ニ相遇フモノ其數七

第四十四 八月三日午前一時蘇士港<sup>スエズ</sup>ニ着ス、這回モ亦錠

泊時間ノ僅少ナリシヲ以テ上陸ヲナサズ、故ニ蘇士市街ハ  
只ゞ點々タル瓦斯燈ノ外景況ヲ望ム能ハズ、午前四時錨ヲ  
拔テ發ス、時ニ本船ヨリ烟花ヲ打上ル<sup>ト</sup>數回當夜ノ景狀  
頗ブル佳ナリシ、夫ヨリ船艦ニ大蠟ノ電氣燈(保檢燈ノ「ト」)  
点ツ有名ナル蘇士運河ニ進入ス、船ノ河ニ入ルヤ頗ニ速力  
ヲ減シ凡ソ一時間五英里ノ割合ヲ以テ進行ス、河中所々ニ  
浮標ヲ設ケ夜間ハ之ニ氣燈ヲ点ツ以テ針路ヲ示ス、之レ蓋シ  
近來ノ發明ニシテ四五年前「ア」ハ夜間船舶ノ通行ヲ禁セ

シモノナリト、現今ニテモ探檢燈ノ設ケナキ船舶ハ夜中ノ航通ヲ許サズ、故ニ河中ニ錠泊セル船舶モ間々見受タリ、午前八時頃右傍ノ堤上亞刺比亞人ノ駱駝ヲ逐フテ往來スルモノヲ見ル、同十時頃土人小舟ニ乘リ進行シツ、アル木船ニ附着シ野菜果實魚類ヲ船中ニ販ク、午後二時頃ニ至リ木船ノ進行ヲ止メ「ボートセード」ヨリ來ル汽船ノ經過スルニ便チ與フ、予ハ物好ニモ甲板ヨリ其船名ヲ熟觀シ且ツ其數ヲ計算セシニ第一ニ通過セシモノヲ「ボクハワ」號「グリーン」ツク「ノ」汽船「ト」ス第二ニ「ハ」シ「ヨ」ナ「號」「ダン」ダ「ノ」汽船「第」三「ニ」ハ「ア」バ「ケ」ル「グ」ア「ノ」汽船「第」四「ニ」ハ「エ、ビ、ビ、エス」號「第」五「ニ」ハ「フ」ン「フ」リ「ユ」エ「ノ」汽船「第」七「番」目「ニ」ハ「リ」ネ「オ」フ「グ」ラ「ス」エ「ノ」汽船「ナ」リ「シ」テ「而」シ「テ」以

上「エ、ビ、ビ、エス」号ヲ除クノ外何レモ千噸以上ノ巨船ナリ、運河行通ノ頻繁ナルヲ推シテ知ルベシ、午後六時四十分本船進行ヲ始ム

第四十五 蘇士運河ハ千八百五十五年佛人「レセツアス」氏(現今工事中)「バナマ」地峽開鑿ノ設計者始メテ開鑿ノ工ヲ起シ千八百七十年ニ至リ漸ク船舶ノ通行ヲ開ケリ、其工事ニ要セシ費用ハ實ニ八千萬弗ノ巨額ナリト云フ、河ハ長サ八十七英里深サ平均七十二「フ」ヒ「ト」幅百「メ」ートル内外ニシテ中間ニ四箇ノ湖水ヲ接続セリ、其地中海ニ近キ「メ」ン「ザ」リ「湖」、次「マ」ク「其次」ヲ「ケ」ム「サ」終ノ蘇士ニ近キ「ト」コロ「ノ」モノ「マ」ビ「アル」湖トス

第四十六 三日ノ夜「ボートセード」碇泊船中ニ寢レリ、故ニ市街ノ景況等之ヲ詳知スル能ハズ、然レモ此地運河ノ

門口ニ在リ運河航通ノ船舶必ズ寄港セザルハナシ、故ニ當地ノ商業ハ主トシテ船客ヲ目的トスルモノ、如シ又此地ニハ佛人多ク移住セリ

第四十七 八月四日美晴拂曉、ポートセールド山帆地中海ニ入レバ海水透明ニシテ清ク一望渺々トシテ際端ナキガ如シ、正午、ポートセールドヨリノ航程九十八海里

八月五日快晴 美風アリテ海上細波漣々トシテ航海頗ブル平穩ナリ、午前十一時頃ニ至リ北方ニ、カンヤヤ島ヲ看ル、島ハ希臘國ノ西南方ニアリテ大サ我四國ニ伯仲セリ、島中概攪油ヲ産スルヲ以テ其名世ニ高シ、予輩ガ歐州ノ土地ヲ見シハ、コノ島ヲ以テ權輿トナス、正午進行三百二十六海里

八月六日晴美風 正午進航三百三十海里、午後三時頃船ノ南方ニ當リ佛國派船ノ東ニ向ツテ進船スルヲ望ム、外

終日洋中渺々トシテ看ルモノナシ

八月七日快晴 昨夜十二時伊太利ノ南端トシテ、ロー島ノ中間ナル、メシナ海峡ヲ駛行セリ、本日正午ノ進航三百四十七海里

第四十八 八月八日快晴初來細雨アリ、午前五時五十分「コルシカ」サルロニア「岡島」間ヲ駛行ス、正午航程三百四十九海里佛國「マーセール」迄ノ殘程僅カニ九十八海里、斯ク「マーセール」若船ノ期近ヅキシヲ以テ船客各行季ヲ修メ上陸ノ準備ヲナス、予ノ同行八名ハ「マーセール」「ロンドン」間ノ派車、派船通切符ヲ買ヒ各上等乗車船賃錢英貨五磅ヲ拂ヘリ、午後六時四十分頃ヨリ遙カニ海岸屋瓦湧クガ如キヲ望ム之レ予輩ガ候チニ待テ受ケタル佛國「マーセール」港ナリ、午後六時五十分一發ノ砲聲ト共ニ「マーセール」港「オートルド

ボートニ錨ヲ投ズ、同七時二十分「グランド、ホテル」ノ引手ノ  
案内ニテ一同上陸直チニ税關ニ至リ各自手荷物ノ検査ヲ  
受ケ夫ヨリ馬車ニテ「グランド、ホテル」ニ投ズ、時ニ午後七時  
五十分ナリキ

第四十九 八月九日午前十時頃ヨリ通辨人一名ヲ雇ヒ  
旅館ヲ出デ、市街ヲ巡覽ス、午後一時頃ヨリ有名ナル「街  
アレー、ド、メーション」ニ至リ一ツノ割烹店ニ入り牛糞ヲ喫シ  
夫ヨリ博物館、公園ヲ巡視シ午後五時宿ニ歸ヘル勿々牛糞  
ヲ終リ直チニ馬車ニテ「マーセル、ステーション」ニ赴キ午  
后六時三十七分同所發ノ漁車ニ乗リ英國倫敦府ニ向フ「ア  
ーレン」グラスコン「アピノン」ヴェレンス」ノ各停車場ニ寄車シ  
零時三十分彼ノ絹製織ヲ以テ有名ナル「リオン」府(佛人タイ  
オン)トモ呼ブ)ノ「バック」停車場ニ着ス全四十八分同所發車

「マコン」ヴォン」及ビ「セーション」ノ三「ステーション」ニ寄リ翌日午  
前九時十五分巴里府「リオン、ステーション」ニ着車セリ  
八月十日 午前九時四十分巴里發車「アルチユー」ロンブ  
ル「パウロン」ノ各停車場ニ立チ寄り午後三時四十五分「カレ  
ー」港ニ着ス、此ニ至リ一同車ヲ下リ漁船「カレースドツル」号  
ニ移リ有名ナル英吉利海峡(又「ドヴァー」海峡或ハ「カレール」海  
峡トモ稱航)ヲ渡航ス、此日天氣朗晴海上風波穏カニシテ對  
岸遙カニ丘陵ノ起伏スルヲ望ム、午後五時英國「ドヴァー」港  
ニ着ス、此間海上二十英里而シテ沒船ノ航海僅カニ一時間  
ニテ達ス

第五十 午後五時三十分「ドヴァー」發ノ漁車ニ上リ倫敦  
府ニ向ツテ進行ス、午後七時十五分英京倫敦「チャールズ」  
クロス」停車場ニ着ス、是ヨリ數キ一行ノ佛國「マーセル」ニ

著スルヤ電報ヲ以テ本日午後七時十五分八名同道「シャヤ」  
 リングクロス「停車場」ニ若スベキ旨ヲ在倫敦ノ我が領事館  
 ニ通ズ、故ニ一行ノ倫敦府ニ若スルヤ鶴原、荒川兩領事館書  
 記、三井物産會社社長垣田孝、同倫敦支店長渡邊孝次郎ノ諸氏  
 予輩ヲ迎ヘテ既ニ停車場ニ在リ、此ニ於テ車ヲ下リ右諸氏  
 ノ案内ニテ「ハイホルボーン」街ナル「インス、オフ、コート」ホテ  
 ルニ投宿セリ

第五十一 日本神戸港ヨリ佛國「マールセル」マダ航程九  
 千五百二十三海里「マールセル」ヨリ巴里府迄陸路(鐵道)五百  
 三十六英里、巴里ヨリ英吉利海峽ヲ渡リ英京倫敦府迄海陸  
 二百七英里ナリ

四	四行	快晴ハ(快晴)ノ誤	全	六行	預事ハ(領事)ノ誤
五	二行	道遙ハ(道遙)ノ誤	二七四	五行	ワヤヴァ(ワヤヴァ)ノ誤
七	五行	殆レドハ(殆レド)ノ誤	全	十行	輪轉ハ(輪轉)ノ誤
九	八行	今ヨハ(今ヨ)ノ誤	三十一	三行	奴隸ハ(奴隸)ノ誤
十	十二行	獨乙類ハ(獨乙類)ノ誤	全	十一行	ハ十一度ハ(八十一度)ノ誤
十一	三行	宜シトスハ(宜シトス)ノ誤	三十四	九行	快晴ハ(快晴)ノ誤
十二	十三行	風超ハ(風超ル)ノ誤	全	十行	涼港ハ(涼船)ノ誤
十八	六行	三本櫓ハ(三本櫓)ノ誤	全	十二行	進船ハ(進航)ノ誤
二十	三行	支那人ヲハ(支那人)ノ誤	三十八	一行	砂漠ハ(砂漠)ノ誤
二十一	八行	雄刀ハ(雄カ)ノ誤	三十九	三行	船海中ハ(航海中)ノ誤
二十二	三行	便宜ハ(便宜)ノ誤	全	九行	保檢燈ハ(探檢燈)ノ誤
二十三	九行	穿テハ(穿テ)ノ誤	四十	十一行	シヤチハ(レンブリ)ノ誤
二十四	四行	披紛ハ(披紛)ノ誤	四十二	十行	概攪油ハ(概攪油)ノ誤
二十五	七行	ハンカチースハ(ハンカチ)ノ誤	四十四	一行	グラブハ(グラブ)ノ誤
二十六	七行	一小賣ハ(一小賣)ノ誤	全	七行	牛糞ハ(牛糞)ノ誤
二十七	八行	商人ハ(商人)ノ誤	全	八行	全上ハ(全上)ノ誤
二十八	十二行	鬼粟ハ(醜粟)ノ誤	四十五	七行	稱航ハ(稱ス)ノ誤
二十九	四行	放逐ハ(放逐)ノ誤	全	九行	沒船ハ(沒船)ノ誤
三十	五行	婦人ハ(婦人)ノ誤			

明治二十四年三月三日印刷  
明治二十四年三月五日出版

(定價金十八錢)

著者兼發行者

滋賀縣平民

高田善治郎

滋賀縣神崎郡北五個莊村  
大字宮莊第三十三番屋敷

印刷者

京都府平民

川勝友治郎

京都府京都市下京區寺町通  
綾小路南入中之町十七番戶

發賣所

川勝鴻寶堂

京都市寺町通綾小路南入



ex 661

